**『ドイツカープとベルリンの壁』　　　　　　　　　　　　　　　　　井上清**

ドイツカープの歴史は、一言で言えば徹底した共産主義との戦い、そしてベルリンの壁打倒にあった。　一九八一年、統一運動の創設者・文鮮明師がドイツカープに対して講演され、「ベルリンの壁を打ち壊そう！」と激励された。当時の西ドイツの首都ボンで行われた三十万の「平和」デモに対して、百五十名のカープメンバーが、「共産主義者の偽りの平和にだまされるな！」などと書かれたプラカード持ってデモの列に加わり、この「平和」・デモの正体を暴露。

　そして一九八七年、歴史的な第四回カープコンベンションが、文孝進・ワールドカープ会長をお迎えして、ベルリンで行われたのである。この大会はまさに、「奇跡的逆転勝利」と呼ぶにふさわしい大会だった。契約していたすべての会場が、いったんはキャンセルされるというどん底状態に追い込まれながら大会四日前に裁判でコンベンションホール確保という大逆転を演じ、反対派・左翼グループの妨害をはねのけた。

　ベルリンの壁でのラリーでは、占拠していた反対派・左翼グループを会場から追い出した。特に圧巻だったのは、文孝進会長の姿だった。自らデモの先頭に立って行進され、「脅し、力、また唯物主義でもなく、ただ神の愛と真理を持ってこの壁を打ち壊しましょう！」と力強く訴えられたのである。そして文孝進会長を中心に、全世界のカープメンバーが、壁に向かって涙の祈りを捧げた。

　以上の『ドイツカープとベルリンの壁』は当時私が書いたものである。　この大会の２年後、１９８９年１１月９日ベルリンの壁は崩壊した。

　その勝利は記録に残った。又、この大会でのベルリンの壁のラリーで最初に左翼が占拠した場所を、私たちは奪還するために闘っていた。その時、メガホンを持って叫んでいた私に左翼の投げた石が当たり負傷した。頭から血を流したがその場所を占領することができたことは忘れられない。

　それから約３７年、今日のウクライナとロシアの問題、イスラエルとガザ地区の問題、台湾と中国の問題、そして韓国と北朝鮮の統一の問題があるが、今、平統連の会員になり、一番難しい南北統一の問題を考える。

真の御父母様は、日韓トンネルは何のために掘らなければならないかというと、「日本の運命が永遠に続く道なのです。国境を崩してしまい、恩讐権を解体するのは結婚するのが一番の早い道なのですよ。そうなると日本と韓国も国境線、玄海灘がなくなるんですよね。だから日韓トンネルの穴を開けることによって、一つの国になるんですよ。そうなると中国もアメリカも韓半島と結ぶために、中国と中東とヨーロッパを結ぶんですよ。だからトンネルを掘らなければならないんですよ。」（２００４．７．８）と語られて、真のお父様は霊界に行かれた。それから、真のお母様が２０１６年その現場に来られた。そして、これをやらなければならないと訴えられた。